

報道関係 各位

2018年10月16日
株式会社日本レースプロモーション

10月27日(土)～28日(日)
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第17回 JAF 鈴鹿グランプリ

FIA WORLD TOURING CAR CUP PRESENTED BY OSCARO JVCKENWOOD RACE OF JAPAN

開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、10月27日(土)～28日(日)の2日間、三重県鈴鹿市 鈴鹿サーキット国際レーシングコース(1周: 5.807 km)において、「2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第17回 JAF 鈴鹿グランプリ」を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース43周(249.701km)にて争われます。

今シーズンの最終戦は、2014年に採用され数々のバトルを魅せたSF14マシンでの最後のレースとなります。また、最終戦では、1位のドライバーにのみ、3ポイントのボーナスポイントが与えられる為、ポールポジションポイントの1ポイントを合わせ最大14ポイントの獲得が可能となり、レースの結果次第では大逆転もあり得る見逃せない大一番となります。

前大会では、雨の中セーフティーカー先導でポールポジションからスタートした関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が、小林 可夢偉(カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)との熾烈なバトルを制して、今シーズン初優勝を果たし、ランキング4位に浮上。チャンピオン争いに望みを繋ぎました。ドライバーランキングトップで大会に臨んだニック・キャンディ(コンドー レーシング)は、5位入賞で2ポイント追加し、29ポイントでランキングトップのまま最終戦を迎えることとなりました。

これにより計算上チャンピオン獲得可能な14ポイント圏内の選手は、2位 石浦 宏明(ジェームス ピーエムユーセルモインギング)、3位山本 尚貴(チーム・ムゲン)、4位 関口と同ポイントとなる17ポイントの5位 平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)となり、チャンピオン経験者を含む5名の強者たちが決着をつけるべく、予選から激しい戦いが予想されます。

合わせて、チームのランキング争いも熾烈を極めており、33.5ポイントで首位を走るコンドー レーシング、2位 32ポイント イトウチュウエネクス チーム インパル、3位 30.5ポイント ジェームス ピーエムユーセルモインギング、4位 23ポイント チーム・ムゲン、5位 16.5ポイントのドコモチームダンディライアンレーシングまでが、チームタイトル獲得の可能性が有り、もしコンドーレーシングがタイトルを獲得した場合、2000年の参戦以来19年越しの初チームタイトル獲得となります。キャンディも初のチャンピオン獲得となれば、ドライバー&チームのダブルタイトル獲得の可能性もあり、大注目の1戦です。



ドライバーランキング1位で、最終戦を迎えるニック・キャンディ(コンドー レーシング)

公式予選

Q1(20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2(7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3(7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

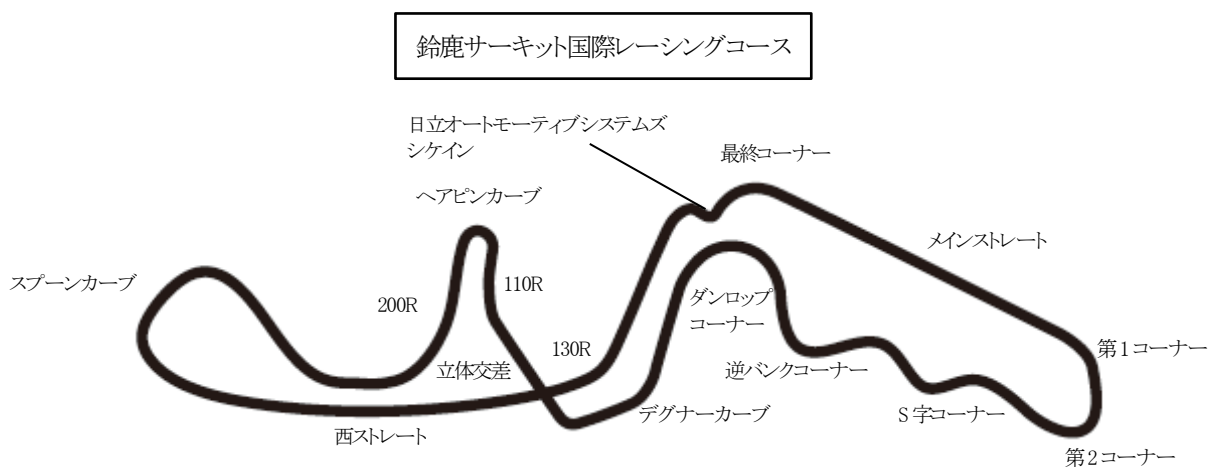
※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

43周 (1周:5.807 km×43周=249.701km)

鈴鹿サーキット国際レーシングコースについて

コースは東西に細長く、中間部分の立体交差をはさんで右回りと左回りが入れ替わる、世界的にも珍しい8の字形のレイアウトとなっています。コース全長は5.807kmで、日本のサーキットの中で最長です。コース幅は10～16m。コーナー数は18。最大高低差は52m。世界の多くのサーキットと比べ摩擦係数の高いアスファルト舗装です。土地の高低差と低速～高速コーナーのバランスが上手く配合されており、難易度が高く走り甲斐のあるコースとして評価されています。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 エントリーリスト

2018年10月16日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA R14A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャンディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドー レーシング)	近藤 真彦	TOYOTA R14A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモ スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA R14A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	1997/ 1/24	日本/徳島県	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアル レーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロッツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA R14A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA R14A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA R14A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

(車両: SF14、タイヤ: ヨコハマ)

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	3	ニック・キャッシュ Nick Cassidy	29	2	0	8	11	6	2	0
2	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	25	5	0	0	8	11	1	0
3	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	24	11	0	10	1	2	0	0
4	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	17	8	0	0	3	0	6	0
5	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	17	0	1	0	5	8	3	0
6	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	12.5	6	0	3	0	1	2.5	0
7	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	11	1	0	6	4	0	0	0
8	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	7	0	0	3	0	0	4	0
9	2	國本 雄資 Yuji Kunimoto	6.5	0	0	0	6	0	0.5	0
10	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	6	0	0	0	2	4	0	0
11	4	山下 健太 Kenta Yamashita	5.5	0	0	1	0	3	1.5	0
12	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	5	0	0	0	0	5	0	0
13	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	5	0	0	5	0	0	0	0
14	64	ナレイン・カーディケヤン Narain Karthikeyan	4	0	0	4	0	0	0	0
15	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
16	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
	37	J・ロシター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	0	0	0	0	0	0	0	0
	18	中山 雄一 Yuichi Nakayama	0	0	0	0	0	0	0	0
	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	福住 仁嶺 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
	36	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ Joao Paulo Lima De Oliveira	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選1位

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	33.5	2	0	9	10	9	3.5	0
2	19 20	ITochU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	32	8	0	0	8	8	8	0
3	1 2	JMS P.MU/CERUMO - INGING (ジェームス ビーエムユーセルモインギング)	30.5	5	0	0	14	10	1.5	0
4	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	23	10	0	10	1	2	0	0
5	5 6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	16.5	6	0	2	0	6	2.5	0
6	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテルイン チーム トムス)	11	1	0	6	4	0	0	0
7	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコチーム ルマン)	11	0	0	5	2	4	0	0
8	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティージーエス・ナカジマレーシング)	8	4	0	4	0	0	0	0
9	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	7	0	0	3	0	0	4	0
10	17	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム（エンタラント）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エンタラント）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、予選1位のポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 最終戦 第17回JAF鈴鹿グランプリ
FIA WORLD TOURING CAR CUP PRESENTED BY OSCARO JVCKENWOOD RACE OF JAPAN
- 開催日程 : 2018年10月27日(土) 公式予選
2018年10月28日(日) 決勝レース
- 開催サーキット : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース(1周:5.807km)
- 主催 : 名古屋レーシングクラブ(NRC)
鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
株式会社モビリティランド
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 同日開催 : FIA WORLD TOURING CAR CUP PRESENTED BY OSCARO JVCKENWOOD RACE OF JAPAN
TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 第9戦 鈴鹿サーキット
(クラブマンシリーズ / プロフェッショナルシリーズ)
- 後援 : 三重県 / 鈴鹿市 / 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会 / 一般社団法人鈴鹿市観光協会
/ 鈴鹿商工会議所

【TV放映予定】

■ BSフジ『2018全日本スーパーフォーミュラ選手権 第7戦 鈴鹿』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がレポートします。今大会は解説者に鈴木亜久里を迎え、鋭くまたわかりやすく解説します。

○実況：ピエール北川

○解説：鈴木亜久里

○ピットリポーター：松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間：2018年10月28日(日)14:00～15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《ゲスト》ニック・キャンディ選手、山本尚貴選手

《放送予定時間》

第7話：2018年10月6日(土) 23:00～23:55

再放送 10月14日(日) 26:00～26:55(予定) ※放送時間変更の場合あり。

■ J SPORTS 『スーパーフォーミュラ 2018 第7戦 鈴鹿サーキット』

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

予選 2018年10月27日(土) 12:30～(予定) J SPORTS 3 <生中継>

決勝 2018年10月28日(日) 13:45～(予定) J SPORTS 3 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
iOS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

●JAF 会員限定・前売観戦券(3日間有効・モトピアパスポート1日券付き)

- 大人:2,800円(30%OFF)通常:4,000円
- 中・高生:2,800円(30%OFF)通常:4,000円
- 小学生:1,550円(50%OFF)通常:3,100円
- 3歳～未就学児:1,000円(50%OFF)通常:2,000円

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	250 km

2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けて決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。